PART3　べし・まじ

べし・まじ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	べし	**べく** べから	べく べかり	べし ○	べき べかる	べけれ ○	○ ○	形容詞型
	まじ	**まじく** まじから	まじく まじかり	まじ ○	まじき まじかる	まじけれ ○	○ ○	形容詞型

【「べし」の意味】＝「スイカとめて」

① 推量（〜だろう）
② 意志（〜よう）
③ 可能（〜できる）
④ 当然（当然〜はずだ）
⑤ 命令（〜せよ）
⑥ 適当（〜するのがよい）

【「まじ」の意味】＝「　　　　」の打消

① 打消推量（〜ないだろう）
② 打消意志（〜ないつもりだ）
③ 不可能（〜できない）
④ 打消当然（〜はずがない）
⑤ 禁止（〜するな）
⑥ 不適当（〜ないほうがよい）

〈「べし」の意味の見分け方〉＝文脈判断。目安として**主語**確認。

○ **一**人称→「　　　」

○ **二**人称→「　　・　　」

○ **三**人称→「　　　」

※ **打消・反語**の文脈→「　　　」

※ **比較・選択**の文脈→「　　　」

（例）家の作りやうは、夏を旨とす**べし**。

※「**べき由**（よし）」の「べき」→「　　　」

〔例題三〕 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この人々の深き心ざしは、この海にも劣らざるべし。

② 東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

③ わが身は女なりとも、敵の手にはかかるまじ。

④ 藤波の咲き行く見ればほととぎす鳴くべき時に近づきにけり

⑤ 「人に聞かすな。人に漏らすまじ」と口固めけり。

⑥ 二条殿へきと参るべきよし、仰せごととて、…

問七 「この人にまさるべからず。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

1 受身　2 可能　3 尊敬　4 打消
5 存続　6 意志　7 婉曲　8 命令

〈Memo〉

第11講　PART3　確認問題

①「便なくや候ふべからん。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

イ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ウ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

エ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

オ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

②「いかが他の力を借る［a］。」の空欄aには「べし」を活用させたものが入る。空欄aに入れるのに最も適当な語形と、その活用形の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　べし・終止形　　イ　べけれ・連体形　　ウ　べし・連用形
エ　べき・連体形　　オ　べかる・終止形　　カ　べから・已然形

③ 空欄にあてはまる助動詞「まじ」の中で、活用形が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 女のえ得(う)［　　］けるを、年を経(へ)て、…
イ 人目おどろくばかりおぼされしも、長かる［　　］なりけりと、…
ウ かかるをりにも、ある［　　］恥もこそと心づかひして、…
エ みづからは、えなむ思ひたまへたつ［　　］。

④ a～fの傍線部の助動詞「べし」の意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

a （かぐや姫は）宮仕へに出(いだ)し立てば死ぬべし、と申す。
b すべきかたなきもの、古寺(ふるでら)に至りて仏を盗み、堂の物の具を破り取りて、…
c 一見(いつけん)すべきよし、人々のすすむるによつて、…
d （帝は）御文、不死の薬の壺ならべて、火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。
e 尼も、後はさはさはと張りかへんと思へども、今日ばかりは、わざとかくてあるべきなり。
f もののはづかしきことの数知らず、涙も落ちぬべければ、…

	a	b	c	d	e	f
ア	意志	可能	当然	命令	適当	推量
イ	命令	意志	当然	推量	適当	可能
ウ	推量	当然	可能	適当	意志	命令
エ	当然	命令	可能	推量	意志	適当

⑤　傍線部の意味が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人の御恨みもある<u>まじ</u>。

イ　一夜（ひとよ）の宿かすものある<u>まじ</u>。

ウ　こよひはえ参る<u>まじ</u>。

〈Memo〉

第11講　PART3　解答

〔例題三〕　①　推量　②　適当　③　打消意志　④　当然　⑤　禁止　⑥　命令

問七　2

第11講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「べし」は終止形接続なので、「候ふ」は終止形。ア・エは除外。助動詞「ん（＝む）」は未然形接続なので、「べし」は未然形。オは除外。係助詞「や」があることから、「ん（＝む）」は連体形。よって、ウが正解。

② 「いかが」という疑問語があるので、文末は連体形に活用させる。下に助動詞がないことから、補助活用ではない「べき」が正しい。よって、エが正解。

③ アは直後の過去の助動詞「ける」が連用形接続であるので、連用形。イは、まず詠嘆の助動詞「けり」が連用形接続であることから、「なり」は連用形だと判断できる。連用形が「なり」であるのは連体形接続の断定の助動詞の場合がほとんどであることから、直前の「まじ」は連体形であると考える。ウは体言「恥」にかかるので連体形。エは文末にあるものの、係助詞「なむ」を受けて、これも連体形に活用する。よって、アが正解。

④ aで「死ぬべし」と言っているのは「かぐや姫」なので、主語は一人称と考える。したがって意志。bは「すべきかたなき」と打消の文脈で用いられているので、可能。cは「人々」が書き手に「（あなたも）一見すべき」と言っているので、二人称と考え、当然の意で訳す。dは帝が「燃やすべきよし」を命令しているという文脈から、命令であると考える。eは主語は三人称（尼）ながら、「いつもと違って今日は…」と比較しているので適当。fは主語が「涙」で三人称なので、推量。よって、アが正解。

⑤ アは主語が「御恨み」なので三人称と考え、打消推量。イも三人称「一夜の宿かすもの」なので、打消推量。ウのみ副詞

「え」と呼応し「できそうにもない」と訳す、不可能の意味。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ウ　②　エ　③　ア　④　ア　⑤　ウ